学校評価について

（１）本年度の学校評価

本年度の重点目標	・生徒の能力や持ち味を最大限に伸ばし、伸び率№.１の学校の実現を目指す。 ・生徒の自己肯定感や自己有用感を高めさせ、満足度№.１の学校の実現を目指す。 ・誰もが誇りを持てる学校教育活動を推進し、“MAKE DRAMA”な学校の実現を目指す。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
式典行事と防災 (総務部)	・学校への帰属意識の向上	(1)式典・各種集会の円滑な実施	(1)コロナ禍において、臨機応変な式典・集会を実施する。
	・防災意識の向上	(2)防災意識を高めるための新たな取組	(2)地域と協働した防災を実践する。
	・同窓会活動の推進	(3)同窓会活動の充実	(3)本校創立 50 周年に向けて、同窓会との十分な連携を図る。
学習指導 (教務部)	・個別最適な学びと協働的な学びの実現	(1)ICT を効果的に用いた学習の実施	(1)スタディサプリとロイロノートを効果的に活用する。
		(2)「総合的な探究の時間」の充実	(2)正・副担任協力し、全教員でより充実した活動を行う。
生活指導 (生徒指導部)	・基本的生活習慣の確立と社会に役立つ人間の育成	(1)生活リズムの確立	(1)遅刻や早退の減少と体調管理の徹底
		(2)規範意識の向上と危機管理能力の育成	(2)「講話」や「各教室」を充実させ、意識付けをさせる。
		(3)学校いじめ防止基本方針に基づいた、いじめ防止対策への取組	(3)面談やアンケートの充実を図る。
進路指導 (進路指導部)	・教員数、生徒数の変化に対応する適切な進路指導	(1)学力向上を目指すための継続的なシステムの構築	(1)教員の数が減る中で、補習などが実施できるように学年を超えた協力体制を作る。また、実施する適切なタイミングを考える。
		(2)「総合的な探究の時間」を通じた進路探究活動	(2)前年度の反省を踏まえ、より効果的にできるように検討、実施していく。
		(3)夏季休業中の高大連携や保育・看護体験実習への積極的な参加の呼びかけ及びキャリア教育の充実	(3)新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、可能な限り実施していく。その際、事前指導・事後指導の充実を図る。
生徒会及び部活動 (特別活動部)	・生徒の主体性伸長を意識した指導	(1)文化祭・体育祭の定着	(1)学校祭刷新２年目になるので、２・３年生を中心にさらに主体性のある学校祭になるようにする。特に本年度は２年生が５クラスになるため運営体制の改善も必要である。
		(2)部活動環境の向上	(2)部活動の活動環境（部室・活動場所）の美化や安全について、具体的に生徒が活動を企画し、実行できるよう指導推進を図る。
		(3)部活動実績の対外的発信	(3)学校案内やホームページ等を用いて、部活動の実績を対外的に発信する機会の充実を図る。
保健・環境美化 (保健厚生部)	・教育相談活動の推進	(1)教育相談活動の充実	(1)教育相談係・ＳＣ・学年会との連携の強化
	・健康管理活動の充実	(2)健康観察の有効活用	(2)健康観察実施の徹底と保健指導の充実
	・学校環境の点検と整備	(3)清掃点検、安全点検の徹底と保健美化委員の活動の活性化	(3)日頃からの環境整備の意識付けと保健美化委員活動の活性化
勤務時間の適正管理と教職員の健康障害防止 (安全衛生委員会)	・勤務時間の適正管理	(1)在校時間等の状況記録の集計結果の確認と分析	(1)在校時間等を客観的に把握し、時間外在校時間の上限が遵守できるよう業務改善・分担を見直し、時間外在校時間の縮減に取り組む。
	・教職員の健康障害防止	(2)教職員のストレスチェックの結果の確認と分析	(2)衛生管理医と連携し、教職員の健康状態を把握するとともに、ストレスチェック結果や在校時間等の状況記録の集計結果についての分析を行い、よりよい職場環境の構築を図る。また、1 か月間の時間外労働時間が 80 時間を超える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無について確認を行い、教職員の健康障害防止に努める。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		ア　教育課程や指導方法の研究と授業改革・授業改善を通して、生徒の思考力、判断力、表現力や主体的に学ぶ態度の育成ができたか。また、分掌・学年・委員会が連携して生徒の状況を共有し個別指導の最適化が図られたか。 イ　学校行事や部活動、ボランティア活動等に積極的に参加できる環境を整え生徒の自己肯定感・自己有用感を高めさせることができたか。 ウ　ワークライフバランスに配慮し、明るく活力に満ちた協力的な職場環境を維持することができたか。	

（2）前年度の学校評価

ア　自己評価結果等

前年度の重点目標	・生徒の能力や持ち味を最大限に伸ばし、伸び率№.１の学校の実現を目指す。 ・生徒の自己肯定感や自己有用感を高めさせ、満足度№.１の学校の実現を目指す。 ・誰もが誇りを持てる学校教育活動を推進し、“MAKE DRAMA”な学校の実現を目指す。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
式典行事と防災 (総務部)	・学校への帰属意識の向上	(1)式典・各種集会の円滑な実施	・１学年のみリモートで参加する形で集会を行うことができた。画像や音声の安定化等にはまだ課題が残っている。
	・防災意識の向上	(2)防災避難訓練、防災シミュレーションの充実	全校生徒を対象に、防災メールによる安否確認を実施した。次年度は、地域住民と連携した防災訓練を実施することを検討したい。
学習指導 (教務部)	・個別最適な学びと協働的な学びの実現	(1)ICT 環境の整備及び教員への周知	・教員用タブレットやプロジェクターの活用は年々増加している。また、BYOD（生徒のスマートフォンを活用）により、スタディサプリやロイロノートのアプリの活用が大きく進んだ。
		(2)「総合的な探究の時間」の充実	・昨年度作成した本校における「総合的な探究の時間」の目標に沿って、充実した教育活動を行うことができた。地域ボランティアや小学校と連携した取組もできた。
生活指導 (生徒指導部)	・規律ある生活習慣の確立と社会のルール・マナーを順守する指導の徹底	(1)挨拶の励行	・マスクを着用していることもあり、大きな声での挨拶は難しかった。
		(2)規範意識の養成と危機管理能力を育成する指導	・「スマホ教室」「交通安全教室」「人権講話」等を開催し、生徒への意識付けをすることはできた。
		(3)教職員・生徒・保護者に対し、いじめ防止対策の周知徹底	・教職員のいじめ防止対策「取組評価アンケート」からも概ね良い結果が得られた。
進路指導 (進路指導部)	・生徒一人一人に適した進路目標の実現	(1)進路実現のための学力向上	・習熟別に補習を実施したことで、各講座でより効果的な指導ができた。
		(2)「総合的な探究の時間」を通じた進路探究活動	・学年によって差はあるが、事前の調べ学習によってより効果的に行事を実施できた。また、生徒自身で調べることで主体性を育むことができた。
		(3)夏季休業中の高大連携や保育・看護体験実習への積極的な参加の呼びかけ及びキャリア教育の充実	・コロナの感染状況の悪化によって、参加人数が少なくなってしまった所もあったが、高大連携事業などを実施することができた。
生徒会及び部活動 (特別活動部)	・学校行事・部活動 ・ボランティア活動の充実	(1)文化的、体育的行事における学年間の連携の深化による学校全体の活性化と生徒会の自主的活動の促進	・学校祭の企画内容を一新し、学年を超えたブロック制を採用することで生徒間の交流を促進することができた。学校祭に限らず生徒の考えや力を随所に生かす工夫をすることができた。
		(2)定着率向上のための定期的な活動状況調査と不参加生徒の把握・指導	・日常の情報交換の中において、部活動は高い定着率を保っており、定期的な活動状況調査を調査することはなかった。
		(3)ボランティア登録者数の増加の働きかけと生徒会、部活動生徒の積極的参加の呼びかけ	・昨年はコロナ禍で実施できなかったボランティア活動を一部再開するとともに、学校行事の企画参加において有志ボランティアを募ったり、行事準備の際に部活動単位での活動を増加させることができた。
保健・環境美化 (保健厚生部)	・教育相談活動の推進	(1)教育相談担当者会議活動の充実	・会議での情報交換により、早期発見対応につながっている。学年との連携体制が整っている。
	・健康管理活動の充実	(2)健康観察の有効活用と健康課題の研究	・毎朝の健康観察により、生徒の健康状態を把握し、対応することができた。
	・学校環境の点検と整備	(3)安全点検の徹底と保健美化委員を中心とした清掃活動の充実	・安全点検を毎月実施することで、迅速な対応ができている。保健美化委員の活動も前年度より、活発に実施することができた。
勤務時間の適正管理と教職員の健康障害防止 (安全衛生委員会)	・勤務時間の適正管理	(1)在校時間等の状況記録の集計結果の確認と分析	・月当たりの時間外勤務が 80 時間超となった教職員は前年度とほぼ同数である。昨年度はコロナ禍で臨時休業期間があったので、実態としては減少したと言える。時間外勤務時間縮減への取組として、PTA の理解と協力を得て、9 月から欠席連絡の電子化を導入することができた。
	・教職員の健康障害防止	(2)教職員のストレスチェックの結果の確認と分析	・前年度と同じく、ストレスチェックにおける本校の総合健康リスクは全国平均と比較して低い状態にある。衛生管理医との面談を希望する教職員もいない。
総合評価	・新型コロナウイルス感染症拡大防止に最大限の注意を払いながら、学習活動、学校行事、部活動等の教育活動を遂行することができた。 ・本年度は、あいちラーニング推進事業重点校に指定され、学習活動における ICT 機器の利活用を進展させるとともに、効果的な活用方法についての研究を推進した。 ・学校祭（体育祭・文化祭）をはじめ多くの学校行事を、生徒が主体的に活躍できるものへとリニューアルさせた。これにより生徒の自己肯定感や自己有用感をより高めさせることができた。 ・他者に対する思いやりの心を持つ生徒の育成ができている。生徒対象の「生徒アンケート」や教職員対象のいじめ防止対策「取組評価アンケート」の結果からも、いじめを許さない、人権尊重の校風が培われていることが分かる。 ・教職員の精神健康度は依然良好であり、一人一人が熱意をもって職務に当たっている。しかし、月当たりの時間外勤務が 80 時間超となる教職員をゼロにすることはできなかった。業務の効率化、業務負担の見直し等に引き続き取り組む必要がある。		

イ　学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	・教育課程や指導方法の研究と授業改革・授業改善を通して、生徒の思考力、判断力、表現力や主体的に学ぶ態度の育成ができたか。また、分掌・学年・委員会が連携して生徒の状況を共有し個別指導の最適化が図られたか。 ・学校行事や部活動・、ボランティア活動等に積極的に参加できる環境を整え生徒の自己肯定感・自己有用感を高めさせることができたか。 ・ワークライフバランスに配慮し、明るく活力に満ちた協力的な職場環境を維持することができたか。
自己評価結果について	・「総合的な探究の時間」での小学校との連携については、とても良い評判が聞かれる。今後も小学校、中学校との連携を進めてほしい。 ・生徒の主体性を育むことを主眼に置いた本校の教育活動を通じて、生徒たちは自己肯定感を高め、各自が自信を得ることができたと思われる。 ・コロナ禍の中、感染予防に努めつつ学校祭が実施できたことは大変良かった。 ・中学生への学習支援や部活動支援、地域行事への積極的なボランティア参加がみられ感謝している。
今後の改善方策について	・ICT 機器の利活用が進んでいるが、双方向でのオンライン授業などについても研究してほしい。
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	・「地域とともにある学校づくり」を引き続き進めてほしい。 ・本校の魅力について、生徒自身がどう感じているかを把握できるとよい。 ・外部からの来校者に対して、日ごろから生徒たちがとても気持ち良く挨拶をしていることから望ましい人間形成ができていることがわかる。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	・構　　成…学校評議員５名、PTA 副会長２名 ・評価時期…令和４年２月４日(金)